

主要産地における令和3年産水稻の生育状況等について 第10報 (7月30日取り纏め)

作成：公益社団法人米穀安定供給確保支援機構情報部 (令和3年7月30日)

道府県	生育状況等		技術・防除・気象等関連公表資料(自治体、気象台等公表資料の抜粋)	(参考)
	育苗・田植進行状況・生育状況等(自治体等公表資料の抜粋)	平年に対する遅速等		
北海道	<p>【生育状況(7月15日現在)】</p> <p>(全道) 生育は平年よりやや早く進んでいる。(北海道農政課 7月21日付)</p> <p>(空知) 生育はやや早く進んでいる。(空知総合振興局 7月21日付)</p> <p>(石狩) 生育はやや進んでいる。(石狩振興局 7月21日付)</p> <p>(後志) 遅速はよ0日。(後志総合振興局 7月21日付)</p> <p>(胆振) 生育は平年並。(胆振総合振興局 7月21日付)</p> <p>(日高) 生育は平年並である。(日高総合振興局 7月21日付)</p> <p>(渡島) 気温が高く経過しており、生育はやや早まっている。(渡島総合振興局 7月21日付)</p> <p>(釧路) 生育は平年よりやや早い。(釧路振興局 7月21日付)</p> <p>(上川) 生育の遅速は、平年よりやや早い。(上川総合振興局 7月21日付)</p> <p>(留萌) 生育は平年並に進んでいる。(留萌振興局 7月21日付)</p> <p>(オホーツク) 生育は平年並である。(オホーツク総合振興局 7月21日付)</p>		<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月31日～8月30日】</p> <p>北海道地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量は日本海側とオホーツク側で平年並、日照時間は日本海側とオホーツク側で、ほぼ平年並、太平洋側で、ほぼ平年並が多い見込み。(気象庁札幌管区気象台)</p> <p>【高温に関する早期天候情報(北海道地方)】</p> <p>8月4日頃から、かなりの高温。(気象庁札幌管区気象台 7月29日)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】</p> <p>北海道地方の向こう3か月の平均気温は平年並が高く、降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁札幌管区気象台)</p>	<p>・「ななつぼし」及び「ゆめぴりか」を中心とする品種構成となっており、主要品種に大きな変化はみられない。</p> <p>(農林水産省 3月23日)</p> <p>(出典資料は以下同じ)</p>
青森	<p>【7月20日現在】</p> <p>(黒石)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「つがるロマン」は草丈が72.1cmで平年より2.9cm長く、株当たりの茎数は23.4本で5.3本少なく、葉数は12.3葉で0.5葉多かった。 ・「青天の霹靂」は草丈が79.8cmで平年より5.3cm長く、株当たりの茎数は23.6本で2.2本少なく、葉数は11.2葉で0.5葉多かった。 ・「まっしぐら」は草丈が79.3cmで平年より4.6cm長く、株当たりの茎数は24.2本で5.4本少なく、葉数は12.0葉で0.5葉多かった。 <p>(十和田)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「まっしぐら」の生育状況は草丈が76.8cmで前年より10.3cm長く、株当たりの茎数は21.1本で3.5本多かった。 <p>(地独) 青森県産業技術センター-農林総合研究所 7月26日付)</p>		<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月31日～8月30日】</p> <p>東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量は日本海側で、ほぼ平年並、太平洋側で平年並か多少少ない見込み。日照時間は日本海側で、ほぼ平年並、太平洋側で平年並が多い見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>【高温に関する早期天候情報(東北地方)】</p> <p>8月4日頃から、かなりの高温。(気象庁仙台管区気象台 7月29日)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】</p> <p>東北地方の向こう3か月の平均気温は平年並が高く、降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>・斑点米カメムシの発生が「多い」と予想される。(北東北) (農林水産省 7月7日付)</p>	<p>・「つがるロマン」及び「まっしぐら」の2品種で9割を占める品種構成で、近年、収量水準の高い「まっしぐら」が増加傾向にあり令和3年産も同様の傾向になるものと考えられる。</p>
岩手	<p>【7月20日現在】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内の水稻は現在、減数分裂期を迎えている。 <p>(生育)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当面の気温は平年並みか高めに推移する予報であり、今後、日平均気温が平年並に経過した場合、出穂期は平年(過去5か年の平均)に比べ、県全体で3日程度早く、品種や地域によっては7月中旬に出穂する圃場もあると予想される。(岩手県 7月20日付) 		<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月31日～8月30日】</p> <p>(同上)</p> <p>【高温に関する早期天候情報(東北地方)】</p> <p>(同上)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】</p> <p>(同上)</p> <p>・斑点米カメムシの発生が「多い」と予想される。(北東北) (農林水産省 7月7日付)</p>	<p>・「ひとめぼれ」及び「あきたこまち」を中心とする品種構成となっている。県のオリジナル品種である「鉄川のしずく」が、耐冷性、耐病性に優れていることから増加傾向となっている。</p>
宮城	<p>【7月20日現在】</p> <p>(大崎) 草丈は平年より長く茎数は平年より少なめの傾向、7月末には出穂の見込み。(大崎農業改良普及センター 7月27日付)</p> <p>(古川農業試験場「ひとめぼれ」)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・草丈は80.7cm(平年比117%)、1㎡当たりの茎数は582.8本(平年比105%)、葉数は11.8枚(平年差0.6枚)となっている。 ・幼穂長は77.3mm(平年差46.7mm)となっており、生育は進んでいる。(7月16日付) ・出穂期は平年(8月3日)より早まる見込み。(宮城県 7月21日付) <p>(大河原) 梅雨明け以降好天が続く、稲の生育が進んでいるため、出穂期は平年より2～4日程度早まる見込み。(南部平坦地は7月28日頃の見込み) (大河原農業改良普及センター 7月21日付)</p> <p>(仙台) 出穂期が早まる見込み。(宮城県仙台農業改良普及センター 7月26日付)</p> <p>(美里) 好天で推移したことにより生育が進んでいる。管内の出穂期は7月30日と予想。(宮城県美里農業改良普及センター 7月21日付)</p> <p>(栗原) 「ひとめぼれ」では、草丈は平年並～やや長、茎数は平年並～やや少なく、葉数は少なく推移している。(出穂期) 北部平坦地・中生品種は7月30日頃の見込み。(平年値8月3日) (宮城県栗原農業改良普及センター 7月21日付)</p> <p>(石巻) (生育調査ほの生育状況) 草丈は平年と比べ長くなっている。茎数は「ひとめぼれ」では平年並～やや少なく、「ササニシキ」では平年並となっている。管内の出穂期は7月30日～8月1日頃の見込み。(宮城県石巻農業改良普及センター 7月21日付)</p>		<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月31日～8月30日】</p> <p>(同上)</p> <p>【高温に関する早期天候情報(東北地方)】</p> <p>(同上)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】</p> <p>(同上)</p> <p>・斑点米カメムシの発生が「多い」と予想される。(北東北) (農林水産省 7月7日付)</p>	<p>・「ひとめぼれ」を中心とする品種構成となっており、近年、収量水準の高い「萌えみのり」が増加傾向にある。</p>
秋田	<p>(平鹿) (7月15日現在) 草丈66.6cm(平年比105%)、茎数58本/㎡(同比106%)、葉数11.3葉(同差+0.4葉)。(7月16日付)</p> <p>(由利) (7月15日調査) 草丈は67.6cmで平年より長く(平年比111%)、㎡あたり茎数は547本で平年よりやや多い(平年比102%)ほとんどの圃場で幼穂形成期に入っている。(7月16日付)</p> <p>(鹿角) (7月15日調査) 草丈は59.9cm(平年比98%)、茎数は605本/㎡(平年比102%)、葉数は11.1葉(平年11.0葉)。(7月16日付)</p> <p>(北秋田) (7月15日調査) 草丈67.1cm(平年比107%)、茎数556本/㎡(同比96%)、葉数11.8葉(同差+0.6葉)。</p> <p>出穂期の予測(7月16日以降、平年値で計算)では、5月15日移植は7月29日(平年8月4日)、5月25日移植は8月4日(同8月7日)。(7月16日付)</p> <p>(秋田) (7月15日調査) 「あきたこまち」の生育は草丈が68.7cm(平年比107%)、茎数が492本/㎡(平年比100%)、葉数が11.6葉(平年比+0.4葉)。(7月16日付)</p> <p>(山本) (7月15日調査) 草丈が68.4cm(平年比110%)、茎数が532本/㎡(平年比100%)、葉数が11.86(平年+0.8)。(7月20日付)</p> <p>(秋田県農林政策課)</p>		<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月31日～8月30日】</p> <p>(同上)</p> <p>【高温に関する早期天候情報(東北地方)】</p> <p>(同上)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】</p> <p>(同上)</p> <p>・斑点米カメムシの発生が「多い」と予想される。(北東北) (農林水産省 7月7日付)</p>	<p>・「あきたこまち」を中心とする品種構成となっている。</p>
山形	<p>【7月20日現在】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「はえぬき」の生育は、平年と比較して、草丈は長く、茎数、葉数はやや多く、葉色はやや淡くなっている。 ・「つや姫」の生育は、平年と比較して、草丈は長く、茎数、葉数はやや多く、葉色はやや淡くなっている。 ・「雪若丸」の生育は、指標と比較して、草丈はやや長く、茎数は多く、葉数はやや多く、葉色は青みとなっている。 ・出穂期は、平年より早まる見込み。(山形県農林水産部 7月26日付) <p>(生育) (鶴岡田川) 【7月19日現在】 出穂期は平年より3～5日早まる予想。「はえぬき」でも走り穂が出始めている圃場がある。(庄内総合支庁 農業技術普及課 7月26日付)</p>		<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月31日～8月30日】</p> <p>(同上)</p> <p>【高温に関する早期天候情報(東北地方)】</p> <p>(同上)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】</p> <p>(同上)</p> <p>・斑点米カメムシの発生が「多い」と予想される。(北東北) (農林水産省 7月7日付)</p>	<p>・「はえぬき」及び「つや姫」を中心とする品種構成となっている。新品種「雪若丸」は増加傾向にある。</p>
福島	<p>【6月29日現在】</p> <p>(農業総合センターの作柄解析試験コシヒカリの生育調査)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主幹出葉からみた生育は、本部と浜地域では6日早く、会津では4日早く進んでいる。 <p>(注) 調査場所は、本部が郡山市、会津地域が会津坂下町、浜地域が相馬市。(福島県 7月8日付)</p>		<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月31日～8月30日】</p> <p>(同上)</p> <p>【高温に関する早期天候情報(東北地方)】</p> <p>(同上)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】</p> <p>(同上)</p>	<p>・「コシヒカリ」及び「ひとめぼれ」を中心とする品種構成で、近年、収量水準の高い「天つとのり」が増加傾向となっている。</p>
茨城	<p>【水戸】 (7月19日現在 対平年遅速) (茨城県農業総合センター-農業研究所作物研究室 7月26日付)</p> <p>(4月30日移植) 出穂期は、「あきたこまち」が7月14日で平年より2日早く、「ふくまるSL」が7月17日で平年並だった。(5月10日移植) 「コシヒカリ」の幼穂長から予測される出穂期は7月29日である。</p> <p>【龍ヶ崎】 (7月16日現在 対平年遅速) (茨城県農業総合センター-農業研究所水田利用研究室 7月21日付)</p> <p>(4月27日移植) 出穂期は「あきたこまち」で7月13日であり平年より2日遅く、「ふくまるSL」で7月16日であり平年より1日遅い。「コシヒカリ」では、今後気温が平年並に推移した場合、幼穂長から予測される出穂期は7月23日頃である。(5月7日移植) 「コシヒカリ」今後気温が平年並に推移した場合、幼穂長から予測される出穂期は、7月29日頃である。</p>		<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月31日～8月30日】</p> <p>関東甲信地方の向こう1か月の平均気温は高く、降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁東京管区気象台)</p> <p>【高温に関する早期天候情報(関東甲信地方)】</p> <p>8月4日頃から、かなりの高温。(気象庁 7月29日)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】</p> <p>関東甲信地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁東京管区気象台)</p> <p>・綿葉枯病の発生が「多い」と予想される。(関東) (農林水産省 7月7日付)</p>	<p>・「コシヒカリ」及び「あきたこまち」を中心とする品種構成で、近年、収量水準の高い「あさひの夢」及び「ふくまる」が増加傾向となっている。</p>

	生育状況等		
栃 木	<p>【7月20日調査】 (早期栽培・品種コシヒカリ) 草丈は前年比101%の平年並、これまでの経過ではやや多かった数は前年比100%と平年並になった。 葉齢は前年並(0.9葉)、葉色は前年より0.3 次かった。生育診断値(葉色×葉数)は前年比91%と平年を下回った。 「コシヒカリ」(5月4日移植)の出穂期は、7月27日頃と推定される。</p> <p>(生育) (早期栽培・品種とちぎの星) 草丈は前年比99%と平年並、葉数は前年より114%と多かった。葉齢は前年より0.4葉多く、葉色は前年より-0.8 低い。生育診断値(葉色×葉数)は前年比92%と平年を下回った。</p> <p>(普通栽培・品種とちぎの星) 葉数が前年比104%から121%と多く、葉色は前年並、生育診断値は前年比110%から116%とやや大きい。 (栃木県 7月26日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月31日～8月30日】 (同上)</p> <p>【高温に関する早期天候情報(関東地方)】 (同上)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 (同上)</p> <p>・綿葉枯病の発生が「多い」と予想される。(関東) (農林水産省 7月7日付)</p>	<p>・「コシヒカリ」を中心とする品種構成となっている。なお、オリジナル品種「なびかり」及び「とちぎの星」が増加傾向にある。</p>
千 葉	<p>・4月20日植えの「コシヒカリ」「粒すけ」は7月16日(平年よりやや早い)から出穂期を迎えた。</p> <p>・成熟期は4月20日植えの「ふさおとめ」が8月11日から、「ふさこがね」は8月17日から、「コシヒカリ」「粒すけ」は8月23日からと予測される。 (千葉県 7月28日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月31日～8月30日】 (同上)</p> <p>【高温に関する早期天候情報(関東地方)】 (同上)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 (同上)</p> <p>・綿葉枯病の発生が「多い」と予想される。(関東) (農林水産省 7月7日付)</p>	<p>・「コシヒカリ」「ふさこがね」及び「ふさおとめ」を中心とする品種構成となっている。</p>
新 潟	<p>【7月29日現在(コシヒカリ)】 (村 上) 草丈/やや長葉数/やや多葉色/淡い(ほ場間差大) 出穂期: 平年に比べ4～5日程度早い。 (村 上) 農業普及指導センター 7月30日付)</p> <p>(新発田) 出穂期は前年より早まる見込み。(前年に比べ4日程度早い) (新発田農業普及指導センター 7月30日付)</p> <p>(三 条) 出穂期は高温で早まり、平年に比べ2日早く、8月2日頃と予想される。(5月連休田植えの場合) (三条農業普及指導センター 7月29日付)</p> <p>(長 岡) 草丈「並」、葉数「並」、葉数「やや早」。(長岡農業普及指導センター 7月29日付)</p> <p>(魚 沼) 出穂は8月5日頃と見込まれる(5/20～5/25植え)。指標値比較(草丈:並 葉数:並 葉色:やや少ない 葉色:並) (魚沼農業普及指導センター 7月29日付)</p> <p>(南魚沼) 管内全体では葉色は「並」。一部のほ場で葉色が指標値を下回っており、そのようなほ場では栄養凋落が懸念される。 出穂期は前年より2日早く、平年より1日早い見込み。(南魚沼農業普及指導センター 7月30日付)</p> <p>(十日町) 草丈は「並」、葉数は「多い」、葉数の進みは「やや早い」、葉色は「並」。梅雨明け後の高温・多照により出穂期は前年より2日程度早まる予想(十日町農業普及指導センターほか 7月29日付)</p> <p>(糸魚川) 調査ほ場の平均は、草丈、葉数は並、葉数はやや多、葉色はやや濃。平坦地の5月上旬田植えのコシヒカリの出穂期は、8月4日頃と予想。(糸魚川農業普及指導センター 7月29日付)</p> <p>【7月26日現在(コシヒカリ)】 (上 越) 出穂は前年より1日程度早まると見込まれる。(5/10～15の田植では8月2日頃が出穂期の見込み) (上越農業普及指導センター 7月27日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月31日～8月30日】 (同上)</p> <p>【高温に関する早期天候情報(北陸地方)】 8月4日頃から、かなりの高温。 (気象庁新潟地方気象台 7月29日付)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 北陸地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁新潟地方気象台)</p> <p>・ニカメイガ、いもち病、斑点米カメシの発生が「多い」と予想される。(北陸) (農林水産省 7月7日付)</p>	<p>・「コシヒカリ」及び「こしいぶき」を中心とする品種構成で、近年「コシヒカリ」が減少し、収量水準の高い「ゆきん子舞」、「つきあかり」及び「みずほの輝き」が増加傾向にある。また、県では新品種「新助」(晩生種)の作付拡大を推奨している。</p>
富 山	<p>【本田での生育状況】(7月19日現在)</p> <p>・「コシヒカリ」 平年に比べて、草丈はやや長く、葉数は並み、葉色は濃く、葉齢はやや遅れている。 今後、平年並の気温で推移した場合、出穂期は前年より2日遅い8月4日頃と見込まれる。</p> <p>・「てんこもり」 平年に比べて、草丈、葉数、葉色は並み、葉齢はやや遅れている。 今後、平年並の気温で推移した場合、出穂期は前年より3日遅い8月7日頃と見込まれる。</p> <p>・「てんたかく」 5月3日移植の「てんたかく」の出穂期は、7月17日となった。 今後、平年並の気温で推移した場合、成熟期は8月22日頃と見込まれる。</p> <p>・「富富富」 近年に比べて、草丈、葉数、葉色は並み、葉齢は遅れている。 今後、気温が平年並に推移すると、出穂期は近年より2日遅い8月6日頃と見込まれる。 (富山県 7月19日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月31日～8月30日】 (同上)</p> <p>【高温に関する早期天候情報(北陸地方)】 (同上)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 (同上)</p> <p>・ニカメイガ、いもち病、斑点米カメシの発生が「多い」と予想される。(北陸) (農林水産省 7月7日付)</p>	<p>・「コシヒカリ」を中心とする品種構成となっているものの、近年高温多湿でも生育が安定している「てんこもり」及び「富富富」が増加傾向にある。</p>
石 川	<p>【7月19日調査】【出穂期予想】</p> <p>・「ゆめみづほ」は平年に比べ並～3日早く、前年並。加賀地域では既に出穂期となっており、能登地域では出穂期となっている。</p> <p>・「能登ひかり」は近年に比べ1～2日早く、前年並。</p> <p>(生育) ・「コシヒカリ」は、加賀地域では前年並で、前年並～1日遅く、能登地域では前年に比べ並～2日早く、前年並と見込まれる。</p> <p>・「ひやくまん穀」は、加賀地域で近年に比べ2～3日遅く、前年並、能登地域は近年並で前年に比べ1日遅いと見込まれる。 (石川県農林総合研究センター 7月20日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月31日～8月30日】 (同上)</p> <p>【高温に関する早期天候情報(北陸地方)】 (同上)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 (同上)</p> <p>・ニカメイガ、いもち病、斑点米カメシの発生が「多い」と予想される。(北陸) (農林水産省 7月7日付)</p>	<p>・「コシヒカリ」及び「ゆめみづほ」を中心とする品種構成であるが、近年県オリジナル新品種の「ひやくまん穀」が増加傾向にある。</p>
福 井	<p>【7月21日調査】(農業試験場の生育状況)</p> <p>「ハナエチゼン」(5月2日移植): 幼穂形成期 6月28日、出穂期 7月17日。</p> <p>「コシヒカリ」(5月20日移植): 幼穂形成期 7月5日。</p> <p>「あきさかり」(5月2日移植): 幼穂形成期 7月10日。 (福井県ほか 7月21日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月31日～8月30日】 (同上)</p> <p>【高温に関する早期天候情報(北陸地方)】 (同上)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 (同上)</p> <p>・ニカメイガ、いもち病、斑点米カメシの発生が「多い」と予想される。(北陸) (農林水産省 7月7日付)</p>	<p>・「コシヒカリ」及び「ハナエチゼン」を中心とする品種構成である。なお新品種である「いちほまれ」が増加傾向にある。</p>
長 野	<p>【農業試験場八重森圃場(標高340m)】 ・移植後40日の生育は、いずれの品種(あきたこまち、コシヒカリ、風さやか)も主稈葉数がやや遅れ、草丈、葉数は前年並である。幼穂形成期は、「あきたこまち」で前年より1日、「コシヒカリ」で2日遅い。 (長野県農業試験場 7月16日付)</p> <p>【農業試験場原村試験地(標高1,017m)】 ・移植後50日の生育は、いずれの品種も主稈葉数は前年並み、草丈はやや遅れ、葉数は少ない傾向である。幼穂形成期は、前年より「きらりん」で5日遅く、「ゆめしなの」で2日遅かった。(長野県農業試験場 7月16日付)</p> <p>【伊那米総合試験地(伊那市美薈)】(7月2日現在) ・伊那米試験地の田植え50日後の生育状況は、「コシヒカリ」で草丈は前年より短く(92%)、葉数は前年より多く(107%)となっている。濡米の葉数は前年並だが、他の品種は「コシヒカリ」と同様の傾向。(上伊那農業農村支援センター 7月2日付)</p> <p>【安曇野市豊科 標高550m 5月15日植(雑穀)「コシヒカリ」「あきたこまち」】(7月7日現在) 「あきたこまち」は7月4日(前年より2日早)、「美山錦」は7月6日(前年より1日早)に幼穂形成期を迎えた。「コシヒカリ」も前年より1～2日程度早く幼穂形成期を迎えると予想される。(松本農業農村支援センター 7月9日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月31日～8月30日】 関東甲信地方の向こう1か月の平均気温は高く、降水量は日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁東京管区気象台)</p> <p>【高温に関する早期天候情報(関東甲信地方)】 8月4日頃から、かなりの高温。 (気象庁 7月29日付)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 関東甲信地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁東京管区気象台)</p>	<p>・「コシヒカリ」「あきたこまち」を中心とする品種構成に大きな変化はない。県のオリジナル品種として「風さやか」の導入を推奨している。</p>
滋 賀	<p>・作況調査では、「みずかがみ」「コシヒカリ」とも草丈は前年より短く、葉数は前年並である。「みずかがみ」の出穂期は、前年より2日遅い7月24日となった。</p> <p>・県内ほ場の「みずかがみ」では、7月20日頃を中心に出穂期を迎えている。5月上旬移植の「コシヒカリ」では7月26日頃に出穂期を迎えている。 (滋賀県農業技術振興センター 7月27日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月31日～8月30日】 近畿地方の向こう1か月の平均気温は高く、降水量は日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁大阪管区気象台)</p> <p>【高温に関する早期天候情報(近畿地方日本海側)】 8月4日頃から、かなりの高温。 (気象庁大阪管区気象台 7月29日付)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 近畿地方の向こう3か月の平均気温は高く、降水量は日本海側で、ほぼ平年並、太平洋側で前年並が多い見込み。 (気象庁大阪管区気象台)</p> <p>・トビイロウンカが発生が「多い」と予想される。(近畿) (農林水産省 7月7日付)</p>	<p>・「コシヒカリ」、「キヌヒカリ」、「日本晴」及び「みずかがみ」を中心とする品種構成である。近年、高温多湿性に優れた「みずかがみ」の作付が推進されている。</p>

生育状況等			
兵 庫	<p>【6月29日現在】</p> <p>(県北)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コシヒカリの葉齢の進展は平年より遅く、草丈はやや長く、莖数はかなり少ない。 ・遅くでは葉齢の進展は平年よりやや遅く、草丈はかなり長く、莖数は多い。 <p>(生育)</p> <p>(県北以外)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・葉齢の進展は平年よりやや早く、草丈は平年並みからやや低い。 <p>(兵庫県 7月5日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月31日～8月30日】</p> <p>(同上)</p> <p>【高温に関する早期天候情報(近畿地方日本海側)】</p> <p>(同上)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】</p> <p>(同上)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トビイロウンカの発生が「多い」と予想される。(近畿) (農林水産省 7月7日付) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「コシヒカリ」「ヒノヒカリ」「キヌヒカリ」及び「山田錦」を中心とする品種構成である。
岡 山	<p>【6月21、22日巡回調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・極早生種の生育は概ね平年並である。 <p>(岡山県 6月30日付)</p> <p>(生育)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月31日～8月30日】</p> <p>中国地方の向こう1か月の平均気温は高く、降水量は平年並か少なく、日照時間は多い見込み。(気象庁広島地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】</p> <p>中国地方の向こう3か月の平均気温は高く、降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁広島地方気象台)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・斑点米カメムシの発生が「多い」と予想される。(中国) (農林水産省 7月7日付) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「アケボノ」、「ヒノヒカリ」、「あきたこまち」、「コシヒカリ」及び「きぬむすめ」を中心とする品種構成である。近年、「きぬむすめ」が増加傾向となっている。
広 島		<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月31日～8月30日】</p> <p>(同上)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】</p> <p>(同上)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・斑点米カメムシの発生が「多い」と予想される。(中国) (農林水産省 7月7日付) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「コシヒカリ」、「あきさかり」及び「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成である。
愛 媛		<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月31日～8月30日】</p> <p>四国地方の向こう1か月の平均気温と降水量、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁高松地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】</p> <p>四国地方の向こう3か月の平均気温は高く、降水量は、平年並か少ない見込み。(気象庁高松地方気象台)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イネミズゾウムシ、稲葉枯病、いもち病の発生が「多い」と予想される。(四国) (農林水産省 6月9日付) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ヒノヒカリ」「コシヒカリ」「あきたこまち」及び「にこまる」を中心とする品種構成に大きな変化はない。
高 知	<p>【西南暖地における早期栽培等の作柄概況】(作柄の良否(平年比較)) (7月15日現在)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高知県(早期栽培)は、やや不良。(農林水産省 7月30日付) <p>(早期稲)</p> <p>6月上旬は比較的天候に恵まれていたため生育は概ね順調であった。しかしながら、4月下旬～5月上旬の低温や5月中旬に日照時間が少なかった事などから、県中央部や東部では分けつ数がやや少ない傾向であり、収量への影響が懸念されている。</p> <p>(普通期稲)</p> <p>梅雨の影響などで定植作業が遅れたり、一部では生育不良や障害の発生、苗いもちにより植え直しをしたほ場があるため生育にはばつきが見られるが、全般的には生育は概ね順調である。</p> <p>(高知県病害虫防除所 7月6日付)</p> <p>(生育・作柄)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月31日～8月30日】</p> <p>(同上)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】</p> <p>(同上)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イネミズゾウムシ、稲葉枯病、いもち病の発生が「多い」と予想される。(四国) (農林水産省 6月9日付) 	<ul style="list-style-type: none"> ・早期栽培は「コシヒカリ」、普通栽培は「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成である。
福 岡	<p>【7月15日現在】(農林業総合試験場における生育概況)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「夢つくし」の草丈は、平年より9%長く、主稈葉数は平年並であった。6月10日植の「夢つくし」の出穂期は8月8日頃と予想される。 ・「元氣つくし」では、草丈は平年より36～42%長く、莖数は平年並～14%多く、主稈葉数は1.2～1.3 葉多かった。 ・「ヒノヒカリ」では、草丈は35～44%長く、莖数は平年並～23%多く、主稈葉数は1.0～1.3 葉多かった。 ・「実りつくし」では、前6年と比べ、草丈は29%長く、莖数は20%多く、主稈葉数は1.2 葉多かった。 <p>(福岡県ほか 7月19日付)</p> <p>(生育)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月31日～8月30日】</p> <p>九州北部地方の向こう1か月の平均気温と降水量、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁福岡管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】</p> <p>九州北部地方の3か月の気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁福岡管区気象台)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「ヒノヒカリ」「夢つくし」及び「元氣つくし」を中心とする品種構成であるが、「ヒノヒカリ」が増加傾向となっている。なお、県では今後新品種「実りつくし」の拡大を推奨している。
熊 本		<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月31日～8月30日】</p> <p>(同上)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】</p> <p>(同上)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「ヒノヒカリ」「森のくまさん」及び「コシヒカリ」を中心とする品種構成に、大きな変化はない。
宮 崎	<p>【西南暖地における早期栽培等の作柄概況】(作柄の良否(平年比較)) (7月15日現在)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宮崎県(早期栽培)は、やや不良。(農林水産省 7月30日付) <p>【作物の生育状況(7月中旬)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普通期水稲は分けつ期。(宮崎県病害虫防除・肥料検査センター 7月28日) <p>(生育・作柄)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月31日～8月30日】</p> <p>九州南部地方の向こう1か月の平均気温と降水量、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁鹿児島地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】</p> <p>九州南部地方の向こう3か月の気温は高い見込み。降水量は平年並か多い見込み。(気象庁鹿児島地方気象台)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「コシヒカリ」及び「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。「み系358」への作付誘導が進められている。
鹿 児 島	<p>【西南暖地における早期栽培等の作柄概況】(作柄の良否(平年比較)) (7月15日現在)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鹿児島県(早期栽培)は、やや不良。(農林水産省 7月30日付) <p>(生育・作柄)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月31日～8月30日】</p> <p>(同上)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】</p> <p>(同上)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・早期栽培は「コシヒカリ」、普通栽培は「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成である。近年、早期栽培において収量水準の高い「なつほのか」が増加傾向であり、「コシヒカリ」との価格差も小さいことから今後も移行が進むことが予想される。

注1：国及び地方自治体、出先機関等がホームページで公表している資料を米穀機構情報部で取り纏め。
注2：令和3年7月30日 16時時点での取り纏め。
注3：更新箇所は赤字で表している。

引用資料:

農作物の生育状況 7月15日現在(北海道 7月21日)、
農作物生育状況 7月15日現在(北海道空知総合振興局 7月21日)、
農作物の生育状況 7月15日現在(北海道石狩振興局 7月21日)、
農作物の生育状況 7月15日現在(北海道後志総合振興局 7月21日)、
農作物の生育状況 7月15日現在(北海道胆振総合振興局 7月21日)、
農作物の生育状況 7月15日現在(北海道日高振興局 7月21日)、
農作物の生育状況 7月15日現在(北海道渡島総合振興局 7月21日)、
農作物の生育状況 7月15日現在(北海道檜山振興局 7月21日)、
農作物の生育状況 7月15日現在(北海道上川総合振興局 7月21日)、
農作物生育状況調査の概要 令和3年7月15日現在(北海道留萌振興局 7月21日)、
農作物の生育と農作業の進捗状況 7月15日現在(北海道オホーツク総合振興局 7月21日)、
作況調査報告(7月20日現在の生育状況)(地独)青森県産業技術センター農林総合研究所 7月26日)、
7月20日現在の水稲の生育状況と当面の技術対策の徹底について(岩手県 7月20日)、
令和3年産水稲の生育状況について(7月20日現在)(宮城県 7月21日)、
令和3年産山稲作情報(第5号)(宮城県大河原農業改良普及センター 7月21日)、
仙台稲作情報2021(第7号)(宮城県仙台農業改良普及センター 7月26日)、
令和3年産美里地区の稲作情報第7号(宮城県美里農業改良普及センター 7月21日)、
令和3年産大崎稲作情報第7号(宮城県大崎農業改良普及センター 7月27日)、
稲作情報(vol.6)(宮城県石巻農業改良普及センター 7月21日)、
栗原の稲作通信令和3年産第6号(宮城県栗原農業改良普及センター 7月21日)、
生育状況報告(秋田県ホームページ「こまちチャンネル」<http://www.e-komachi.jp/> 7月26日閲覧)、
当面の技術対策(8月)(山形県農林水産部 7月26日)、
おいしい米づくり情報第11号(庄内総合支庁農業技術普及課 7月26日)、
主要な農作物の生育情報令和3年度第4号(福島県農林水産部 7月8日)、
農研速報(茨城県農業総合センター農業研究所 7月26日)、
農研速報(茨城県農業総合センター農業研究所 7月21日)、
令和3(2021)年度水稲生育診断予測事業速報No.5(栃木県 7月26日)、
水稲の生育と当面の対策第6報(千葉県 7月28日)、
岩船米生育速報(7月29日現在)(村上農普及指導センター 7月30日)、
コシヒカリ生育情報第8号(魚沼農業普及指導センター 7月29日)、
令和3年産水稲生育速報No.7(新発田農業普及指導センター 7月30日)、
水稲生育速報(長岡農業普及指導センター 7月29日)、
FAX稲作情報No.9(三条農業普及指導センター 7月29日)、
南魚沼産コシヒカリ生育速報No.7(7/29調査)(南魚沼農業普及指導センター 7月30日)、
十日町地域稲作生育速報(令和3年7月29日)(十日町農業普及指導センターほか 7月29日)、
コシヒカリ・こしひき生育速報No.7(上越農業普及指導センター 7月27日)、
令和3年度糸魚川売れる米づくりコシヒカリ生育情報No.7(糸魚川農業普及指導センター 7月29日)、
TACS情報第8号(富山県 7月19日)、
令和3年産水稲の生育状況と今後の対策(水稲生育診断技術確立調査-8号)(石川県農林総合研究センター 7月20日)、
稲作情報No.12(水田農業レベルアップ委員会技術普及部会 7月21日)、
令和3年作物技術普及情報第12号(松本農業農村支援センター 7月9日)、
農業試験場水稲試験圃の生育状況(令和3年)(長野県農業試験場 7月16日)、
水稲高標高試験圃の生育状況(令和3年)(長野県農業試験場 7月16日)、
伊那米総合試験地水稲奨励品種決定ほ生育状況(上伊那農業農村支援センター 7月2日)、
令和3年度水稲生育診断情報No.4(滋賀県農業技術振興センター 7月27日)、
令和3年度兵庫県農業気象技術情報No.3(7月情報)(兵庫県 7月5日)、
令和3年度病害虫発生予報第4号(岡山県病害虫防除所 6月30日)、
病害虫発生予察情報について(高知県病害虫防除所 7月6日)、
福岡県米麦大豆生産改善速報 第2号(福岡県、福岡県米麦品質改善協会 7月19日)、
令和3年度病害虫発生予報第4号(宮崎県病害虫防除所・肥料検査センター 7月28日)、

北海道地方方向こう1か月の天候の見通し(7月29日札幌管区気象台)、東北地方方向こう1か月の天候の見通し(7月29日仙台管区気象台)、関東甲信地方方向こう1か月の天候の見通し(7月29日気象庁)、
北陸地方方向こう1か月の天候の見通し(7月29日新潟地方気象台)、近畿地方方向こう1か月の天候の見通し(7月29日大阪管区気象台)、中国地方方向こう1か月の天候の見通し(7月29日広島地方気象台)、
四国地方方向こう1か月の天候の見通し(7月29日高松地方気象台)、九州北部地方方向こう1か月の天候の見通し(7月29日福岡管区気象台)、
九州南部・奄美地方方向こう1か月の天候の見通し(7月29日鹿児島地方気象台)、

北海道地方方向こう3か月の天候の見通し(7月21日札幌管区気象台)、東北地方方向こう3か月の天候の見通し(7月21日仙台管区気象台)、関東甲信地方方向こう3か月の天候の見通し(7月21日気象庁)、
北陸地方方向こう3か月の天候の見通し(7月21日新潟地方気象台)、近畿地方方向こう3か月の天候の見通し(7月21日大阪管区気象台)、中国地方方向こう3か月の天候の見通し(7月21日広島地方気象台)、
四国地方方向こう3か月の天候の見通し(7月21日高松地方気象台)、九州北部地方方向こう3か月の天候の見通し(7月21日福岡管区気象台)、
九州南部・奄美地方方向こう3か月の天候の見通し(7月21日鹿児島地方気象台)、

高温に関する早期天候情報(北海道地方)(7月29日14時30分 札幌管区気象台)、高温に関する早期天候情報(東北地方)(7月29日14時30分 仙台管区気象台)、
高温に関する早期天候情報(関東甲信地方)(7月29日14時30分 気象庁)、高温に関する早期天候情報(北陸地方)(7月29日14時30分 新潟地方気象台)、
高温に関する早期天候情報(近畿地方)(7月29日14時30分 大阪管区気象台)、

令和3年産水稲の西南暖地における早期栽培等の作柄概況(7月15日現在)(農林水産省 7月30日)、

令和3年度病害虫発生予報第4号(農林水産省 7月7日)、
令和3年産水稲の10a当たり平均収量に係る生産事情(都道府県別)(農林水産省 3月23日)